

文化ボランティア活動に関するアンケート調査結果の概要

福岡県では、平成24年7月に県内各地で活躍する文化ボランティア団体（※3つの分野に属する団体）と、ボランティアが活躍する場所であるホール・劇場、美術館・博物館など114団体を対象としたアンケート調査を実施した。アンケートの内容は、これまで3回のフォーラムで浮き彫りとなった、ボランティア活動に共通する問題・課題を問うたもので、項目1では、現在悩んでいる事項を5つの問題点として設定し、該当する事項を全て選んでもらった。項目2では、項目1で選んでもらった事項ごとにその原因を問う内容とした。

回答は、約7割に相当する77団体から戴いたので、その概要を報告する。

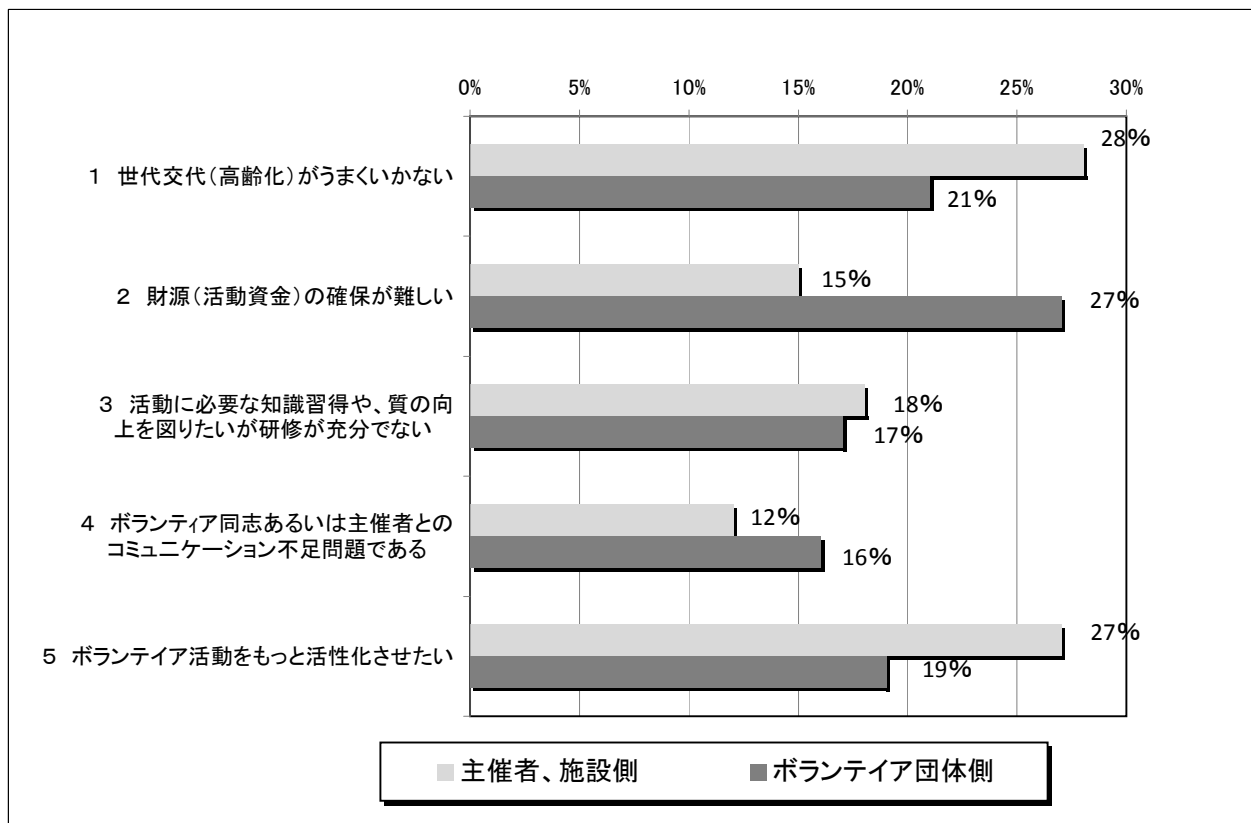
なお、取りまとめは、ボランティア団体側と、主催者・施設側に分類し、双方の思惑の違いがより鮮明となるようにした。

※3つの分野とは、読み聞かせ（図書）ボランティア、街巡り（歴史ガイド）ボランティア、「まちづくり」など地域おこしに関わるボランティア

《項目1》

貴団体あるいは貴職において、今お悩みの問題、課題だと思われるものは何ですか。

（複数回答 可）

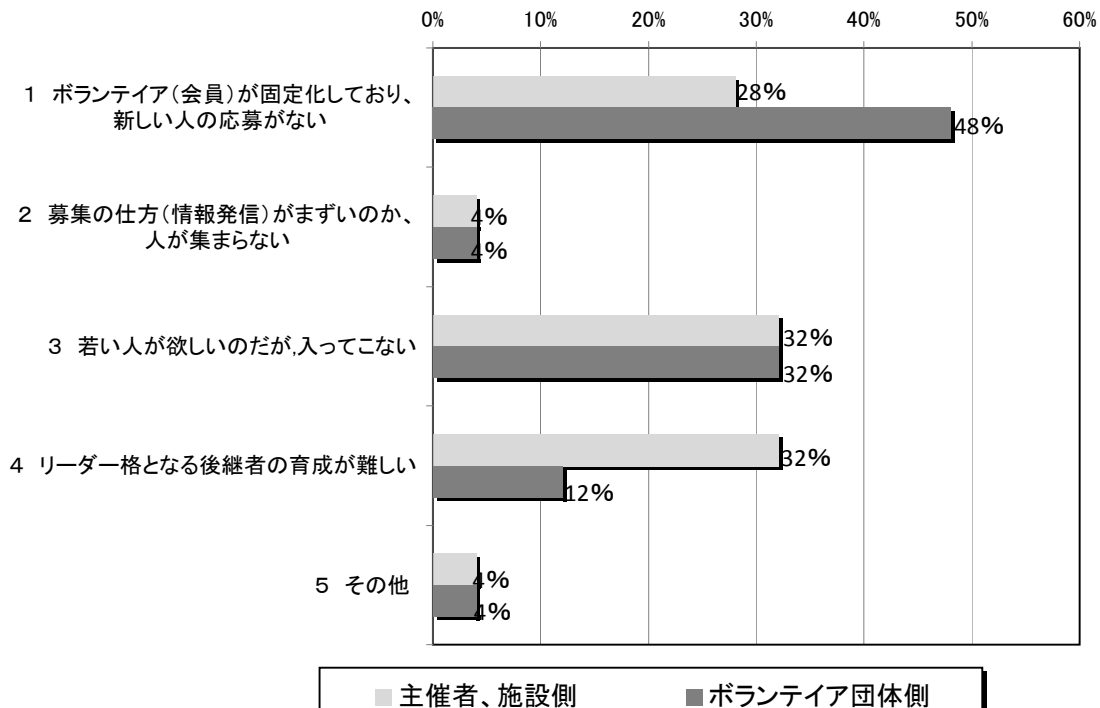


【考 察】

主催者側では、ボランティアの世代交代の難しさや高齢化の問題、さらにボランティア活動を活性化させたいとの思いが強い。一方、ボランティア側では活動資金の確保に最も苦労していることが判り、世代交代や活動の活性化の問題と主催者とのコミュニケーション不足にも悩んでいる。

《項目2》

(A) ボランティアの世代交代(高齢化)に関して(回答は一つだけ)



【考 察】

主催者側、ボランティア側とも、ボランティアの新規加入を希望している。特に若い人の加入を待ち望んでいる実態が見えるが、若い方が 団体内にいたとしても即戦力として活動できるかどうかは団体(※ボランティア側メッセージ)により事情が異なるようだ。主催者側では、ボランティア団体を引っ張るリーダー格となる人材の育成が課題となっている。

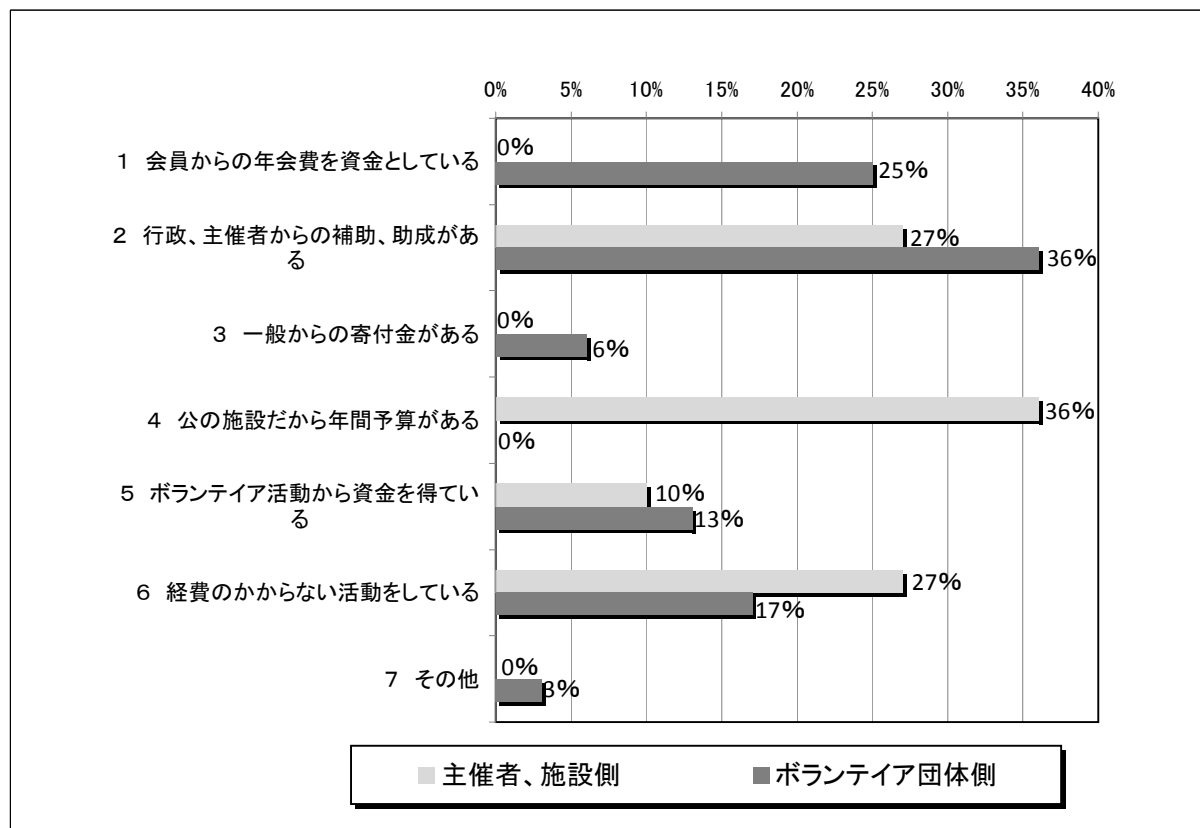
(※ボランティア団体からのメッセージ)

★若い方は勤めている人がほとんどで、活動できる日が 少ない。

《項目 3》

(B) ボランティアの財源(活動資金)に関して

(1) 現在活動資金はどのようにして捻出されていますか？(複数回答可)



【考 察】

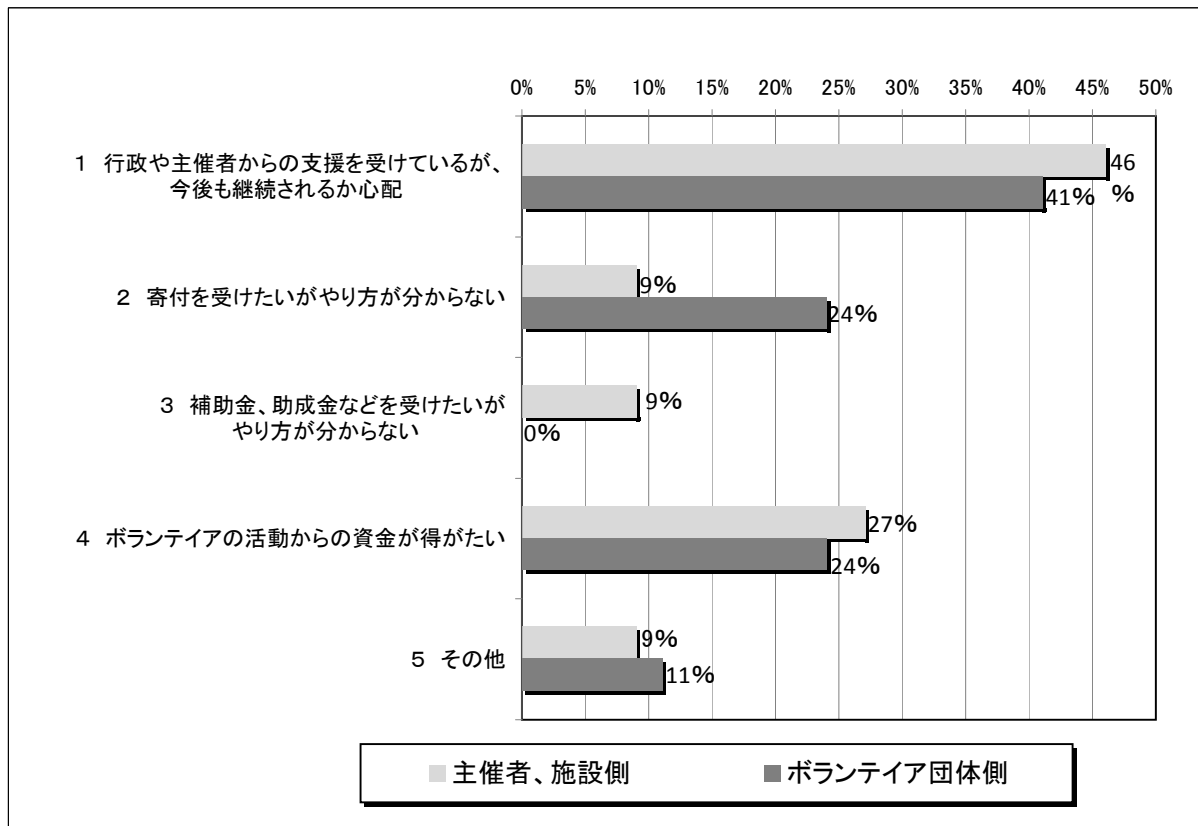
主催者側は、年間予算(補助、助成金)を確保しているところが多いが、できるだけ経費をかけない、あるイベント等で資金を確保しながら活動している実態が判る。

一方ボランティア側は、行政等からの補助、助成金をもらっている団体が多い。会員からの年会費も主要な財源である。中には、ボランティア活動で幾らかの財源を稼いでいる団体も見受けられる。

《項目 4》

(B) ボランティアの財源(活動資金)に関して

(2)財源(活動資金)に関する課題は何ですか？(回答は1つだけ)

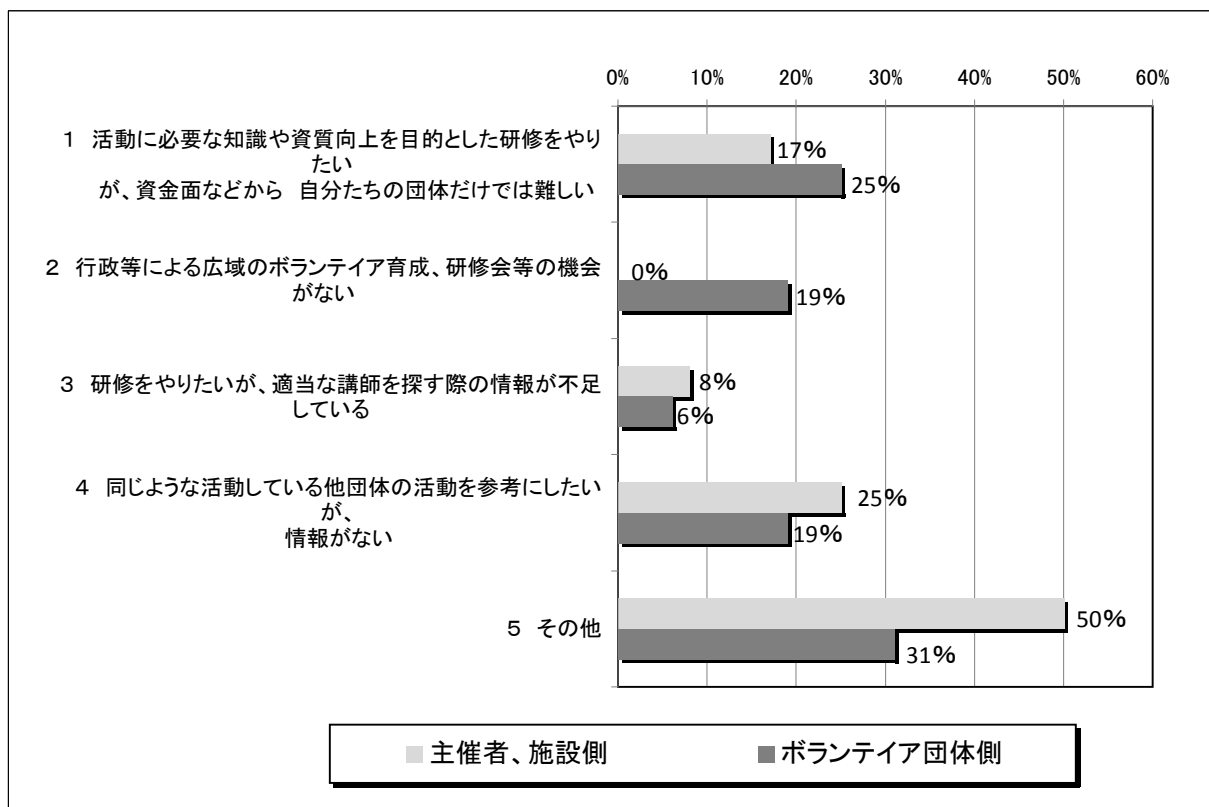


【考 察】

主催者側は、今後、予算が継続されるものかどうか、またボランティア活動から予算を確保するも難しいと予算の確保に苦労している。一方、ボランティア団体も引き続き補助、助成金の確保ができるかどうかを問題としながらも、寄付金の受け方やボランティア活動からの資金の調達方法を模索しているのが伺える。これらは、今後の資金確保の主流となるべき課題といえる。

《項目 5》

(C) ボランティア教育、研修に関して(回答は1つだけ)



【考 察】

主催者側に研修の必要性は認識されているものの、ボランティア側のやる気、認識の低さがネック(※主催者側のメッセージ)となっているようである。逆に主催者側が忙し過ぎる理由等により、結果的には十分研修が行われていないのが現状である。一方ボランティア側によると、行政が研修を企画してくれても日程が合わなかったり、研修内容が求めるもの異なっていたり(※ボランティア側のメッセージ)で、行政とのミスマッチが問題である。

(※主催者側のメッセージ)

★ボランティア側に、自主的・意欲的に資質や技術の向上を目指そうとする姿勢があまり見られない。

(押し付けの研修では効果が少ない)

★ボランティア個人が積極的に資質向上を目指すような意識付けが必要である。

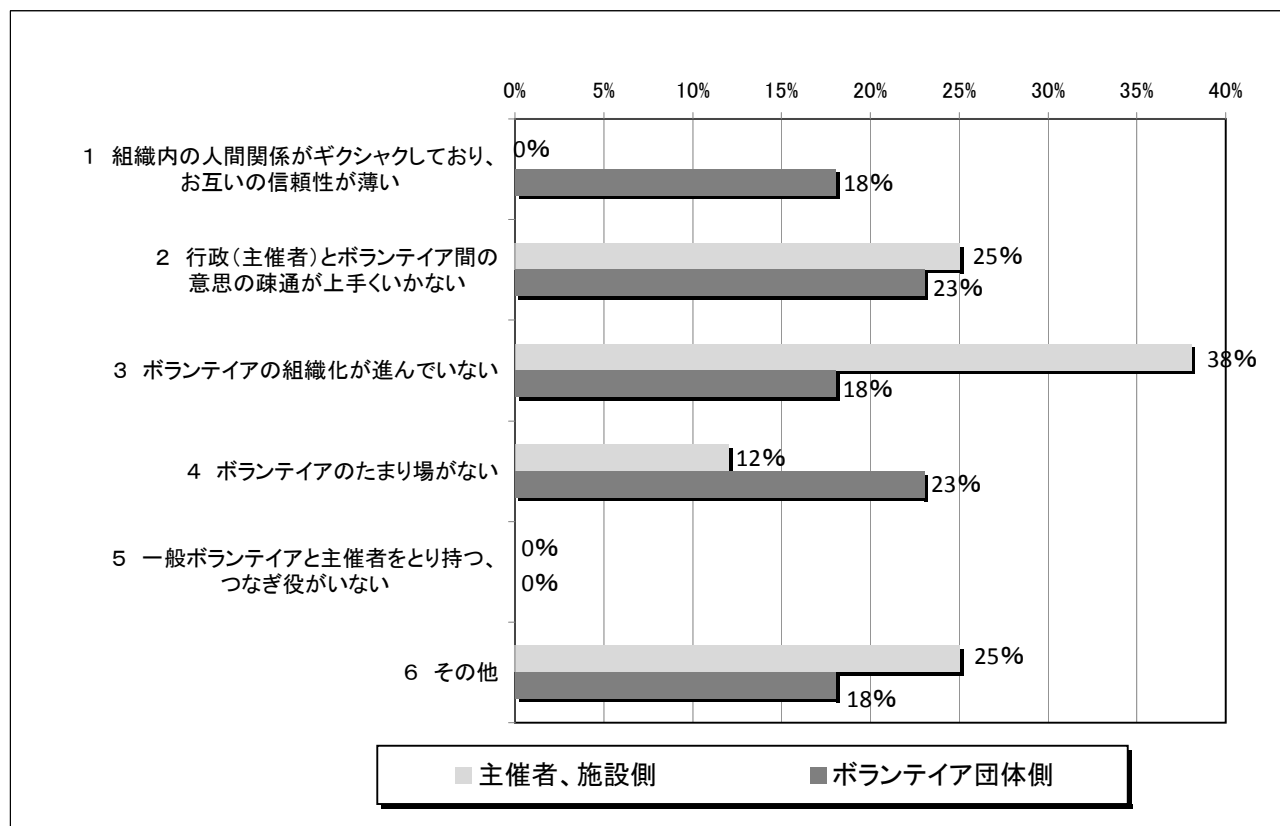
(※ボランティア側のメッセージ)

★年に数度、図書館・教育委員会主催の研修が行われており、それを活用しているが、必ずしも日程が合うとは限らない。

★行政で研修を行ってもらっているが、自分たちが望んでいる研修内容とは異なる。

《項目 6》

(D) コミュニケーション不足に関して(回答は1つだけ)



【考 察】

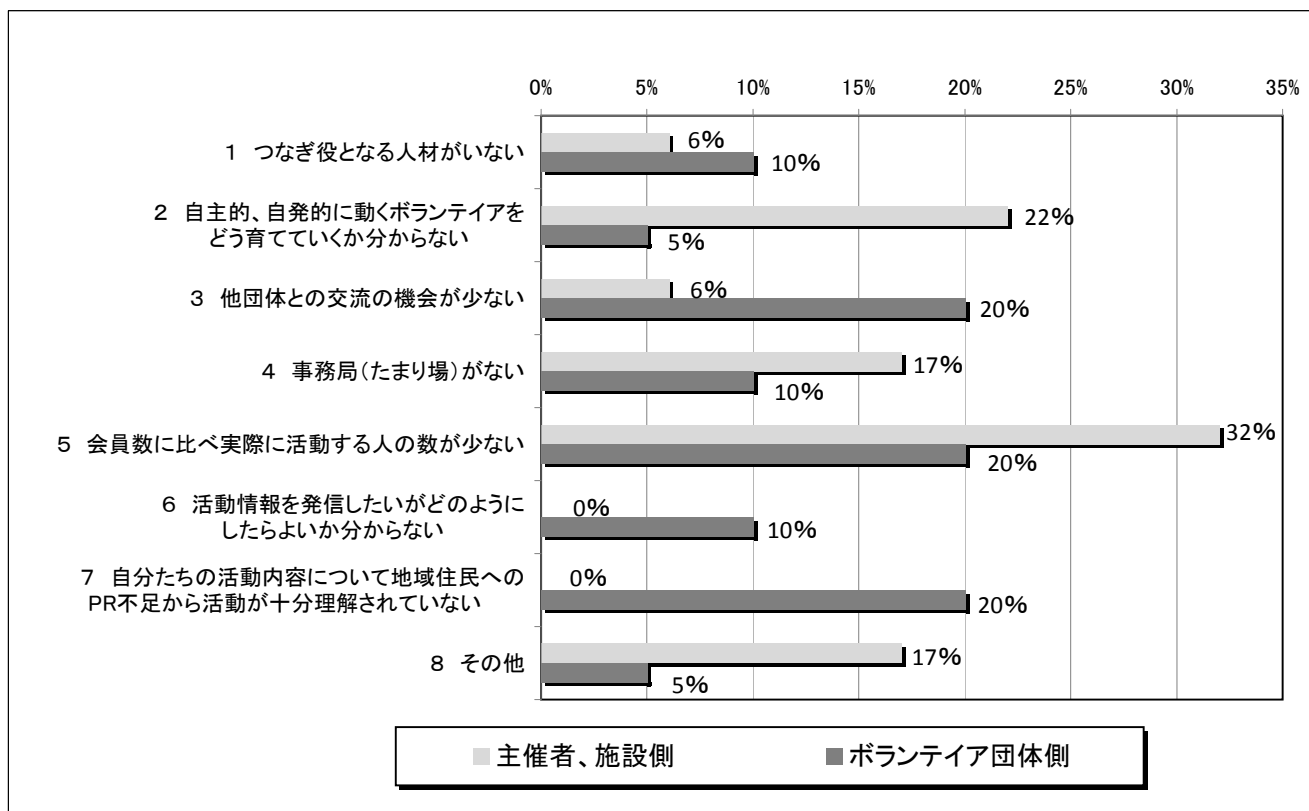
主催者側・ボランティア側ともに、5番のつなぎ役がメモリ(%)として上がってこない理由は、必要性は認識している筈だが、緊急性が低いためと考えられる。

ボランティア団体の組織化も双方で必要と考えているようだが、主催者側で特に顕著である。少ない担当スタッフで業務をこなしている現実が見え隠れする。さらに、ボランティアとのコミュニケーション不足は十分認識しているものの、具体的な手を打つまでは至っていない。

一方、ボランティア側も主催者とのコミュニケーションを希求している。たまり場を作る必要がある。

《項目 7》

(E) ボランティア活動を活性化させたいが。(回答は1つだけ)



【考 察】

登録会員数に対して、実際に活動する人の数が少ない現状は、主催者に限らず頭の痛い問題で、ボランティア個々の認識に期待したいところである。主催者側では、主体的に活動するボランティアの育成に悩んでいるが、この背景には少ない職員で切り盛りしている行政側の事情が伺える。

一方ボランティア側は、活性化する道筋として、同様な活動をしている他団体との交流を望んでいる。

今後、ネットワーク化や定期的な交流会の開催等が望まれる。最後に、ボランティア活動が地域の皆様に十分理解されていないと感じている現状は、広報、PR不足の問題として今後の課題であろう。